

10年 1月27日

在来線の存続、地域の振興・発展をめざす地域の会連絡会代表 仲田 紀夫

大糸線・北陸線を守る会

妙高と信越本線を考える会

在来線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会

在来線を守る三市連絡会

地域の宝である在来線の存続・充実にに関する要請

県民生活の安定・向上、県政の益々の発展にまい進されていることに敬意を表します。

さて新幹線開業に伴う在来線問題、街づくり事業、地域振興策、並行在来線の取り扱いなど、沿線三市などでは重要課題としその具体化がはかられています。

並行在来線をめぐっては先行三セク会社の例を見るまでもなく、前「政府・与党合意」の行き詰まりは明らかで、その抜本的見直しは沿線自治体をはじめ関係各方面の強い要望であります。

三セク経営の厳しい現実、沿線首長の相次ぐ見直し発言、地域の住民運動の高揚により、政権交代後ようやく国交大臣が枠組みの再検討を表明、昨年末に「整備新幹線に関する基本方針」が示されました。

大糸線、ほくほく線を含む在来線は豪雪、過疎、高齢化の厳しい環境の中で、住民の足と地域社会を守る大切な生命線です。この在来線を将来にわたり安定的に存続・運営させるため、新たな情勢をふまえ下記事項について対応されるよう要請します。

記

- 1 前「政府・与党合意」の並行在来線の取り扱いが見直されますが、国、ＪＲの責任と役割を明確にするよう働きかけていただきたい。
- 2 沿線三市及び住民組織との連携を深め、地域・利用者の要望を反映していただきたい。
- 3 ＪＲ東日本が本年、大糸線に導入する「新型展望車両」の糸魚川駅までの運行は、糸魚川市の地域振興に欠かせない課題であり、県はＪＲ東日本・ＪＲ西日本会社などへ糸魚川駅まで乗り入れの実現を図るよう強力に要請していただきたい。
- 4 北越急行と協力し、ほくほく線の存続・活性化、地域振興の方針、展望を示していただきたい。